

【プレゼンテーション資料】

**2015年度第1四半期 連結業績 および
ソニー生命の2015年6月末MCEV**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2015年8月7日

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

＜ネットカンファレンス（電話会議）による決算説明会＞

日時：2015年8月7日（金）16:00～17:00

内容：「2015年度 第1四半期 連結決算説明会」

発表者：ソニーフィナンシャルホールディングス
常務取締役 清宮 裕晶

ソニーフィナンシャルホールディングス
清宮 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、当社グループの
2015年度 第1四半期 連結業績についてご説明いたします。

スライド4をご覧ください。

■ 2015年度第1四半期 連結業績	P.3
■ 2015年度 連結業績予想	P.28
■ ソニー生命の2015年6月末MCEV および 経済価値ベースのリスク量	P.30
■ 参考情報	P.33

免責事項:

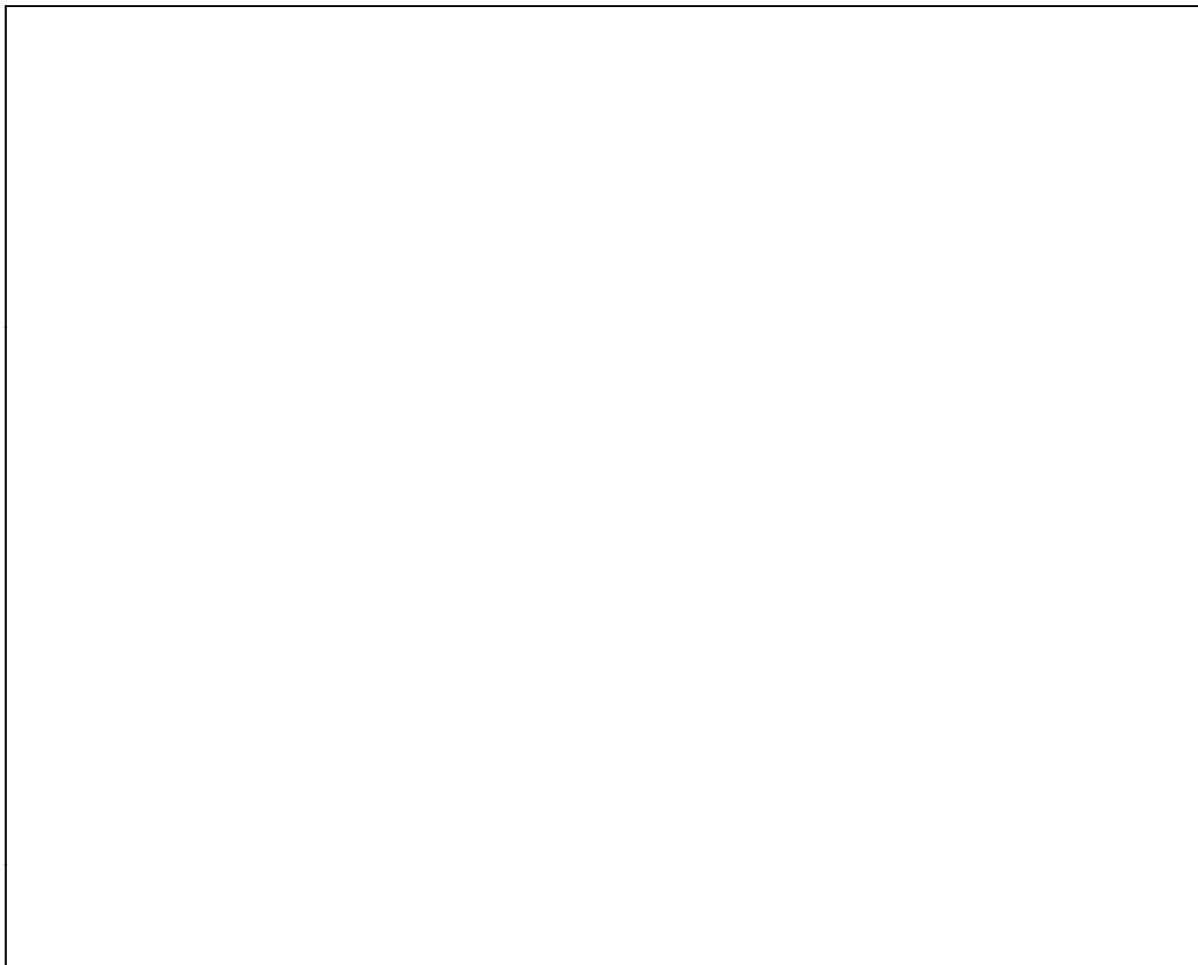
このプレゼンテーション資料に記載されている、ソニーフィナンシャルグループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、過去の事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーフィナンシャルグループの経営者の仮定、決定ならびに判断に基づいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確定な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、ソニーフィナンシャルグループが将来の見通しを見直して改訂するとは限りません。ソニーフィナンシャルグループはそのような義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わずいかなる投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものでもありません。

※本資料掲載情報は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示しています。

また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「」表示しています。

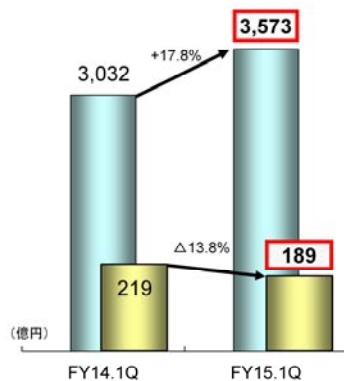
※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

2015年度第1四半期 連結業績



連結業績ハイライト①

□ 連結経常収益 □ 連結経常利益



(億円)		FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比	
生命保険事業	経常収益	2,705	3,239	+533	+19.7%
	経常利益	174	149	△25	△14.7%
損害保険事業	経常収益	241	247	+6	+2.7%
	経常利益	27	21	△5	△21.7%
銀行事業	経常収益	93	93	+0	+0.4%
	経常利益	17	18	+1	+7.2%
セグメント間の 内部経常収益・ 利益(※1)	経常収益	△7	△7	△0	—
	経常利益	0	0	+0	+2.7%
グループ連結	経常収益	3,032	3,573	+540	+17.8%
	経常利益	219	189	△30	△13.8%
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	145	128	△17	△11.9%

(※1) 主として持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益

(※2) 包括利益: FY14.1Q...226億円、FY15.1Q...54億円

(億円)		15.3末	15.6末	前年度末比	
グループ連結	純資産	5,506	5,386	△119	△2.2%
	総資産	95,458	97,329	+1,871	+2.0%

まず、当社グループの連結業績についてご説明いたします。

連結経常収益は、生命保険事業、損害保険事業、および銀行事業のすべての事業で増加し、前年同期に比べ17.8%増の3,573 億円となりました。

連結経常利益は、銀行事業において増加したものの、生命保険事業および損害保険事業においては減少したことにより、前年同期に比べ13.8%減の189 億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比11.9%減の128 億円となりました。

次のスライド5では、各事業の業績をまとめて記載しております。後ほどご覧ください。

スライド6をご覧ください。

連結業績ハイライト②

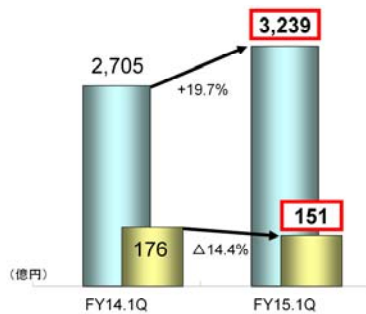
<前年同期比分析>

- 生命保険事業: 第1 四半期(4月~6月期)としては過去最高の新契約高を更新し、保有契約高も堅調に推移。経常収益は、保険料等収入が増加したことに加え、好調な市況を受けて特別勘定の資産運用収益が増加したことにより、増収。経常利益は、一般勘定における有価証券売却益や利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険に係る責任準備金繰入額や保険金等支払金の増加により、減益。
- 損害保険事業: 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は前年同期に比べて増収。経常利益は、経常収益が増加したものの、事業費の増加などにより、前年同期に比べて減益。
- 銀行事業: 外貨関連取引および住宅ローンにかかる収益が増加したことにより、経常収益、経常利益ともに増加。
- 連結経常収益は、生命保険事業、損害保険事業、および銀行事業のすべての事業で増加し、3,573 億円(前年同期比17.8%増)。経常利益は、銀行事業において増加したものの、生命保険事業および損害保険事業において減少した結果、189 億円(前年同期比13.8%減)。親会社株主に帰属する四半期純利益は、128 億円(前年同期比11.9%減)。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 経常収益は増収、経常利益は減益。
- ◆ 保険料等収入は、保有契約高が堅調に推移したことにより、増加。
- ◆ 資産運用収益は、好調な市況を受けて特別勘定の資産運用益が増加したことにより、増加。
- ◆ 経常利益は、一般勘定における有価証券売却益や利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険に係る責任準備金繰入額や保険金等支払金の増加により、減益。

(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比	
経常収益	2,705	3,239	+534	+19.7%
保険料等収入	2,207	2,545	+338	+15.3%
資産運用収益	481	677	+195	+40.6%
うち利息及び配当金等収入	325	363	+28	+8.6%
うち金銭の信託運用益	13	31	+18	+138.2%
うち有価証券売却益	1	36	+34	—
うち特別勘定資産運用益	140	247	+107	+76.2%
経常費用	2,528	3,087	+559	+22.1%
保険金等支払金	744	913	+169	+22.7%
責任準備金等繰入額	1,434	1,767	+333	+23.2%
資産運用費用	19	40	+20	+103.8%
事業費	275	306	+30	+11.1%
経常利益	176	151	△25	△14.4%
四半期純利益	117	102	△15	△13.1%

(億円)	15.3末	15.6末	前年度末比	
有価証券残高	65,437	67,233	+1,796	+2.7%
責任準備金残高	67,272	69,014	+1,741	+2.6%
純資産額	4,325	4,208	△117	△2.7%
その他有価証券評価差額金	1,181	1,108	△72	△6.1%
総資産額	73,013	74,945	+1,932	+2.6%
特別勘定資産	7,933	8,298	+365	+4.6%

ソニー生命の業績のハイライトをご説明いたします。

経常収益は、保険料等収入が増加したことに加え、好調な市況を受けて特別勘定の資産運用収益が増加したことにより、前年同期に比べ19.7%増加の3,239億円となりました。

経常利益は、一般勘定における有価証券売却益や利息及び配当金等収入が増加したものの、変額保険に係る責任準備金繰入額や保険金等支払金の増加により、前年同期に比べて14.4%減少の151億円となりました。

四半期純利益は、13.1%減少の102億円となりました。

スライド7では、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。
続きまして、スライド8をご覧ください。

ソニー生命 主要業績指標(単体)

(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	増減率
新契約高	11,358	13,242	+16.6%
解約・失効高	4,494	4,950	+10.1%
解約・失効率	1.15%	1.21%	+0.06pt
保有契約高	395,597	416,096	+5.2%
新契約年換算保険料	189	223	+18.2%
うち第三分野	37	39	+6.5%
保有契約年換算保険料	7,065	7,476	+5.8%
うち第三分野	1,689	1,748	+3.5%

(注)新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

<主な増減要因>

◆ 変額保険や家族収入保険の販売好調により、増加。

◆ 変額保険の販売好調により、増加。

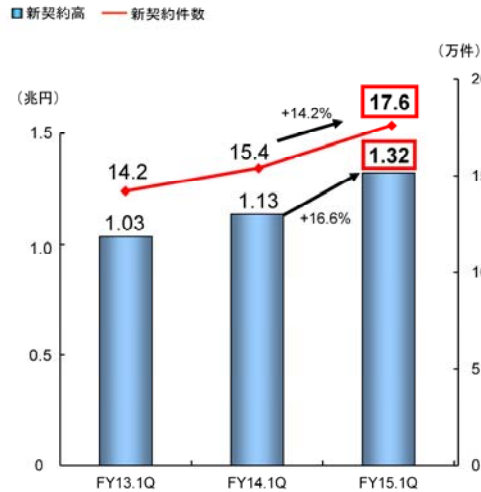
(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	増減率
資産運用損益(一般勘定)	321	389	+21.2%
基礎利益	187	133	△28.9%
順ざや額	30	41	+36.7%

◆ 順ざや額は増加したものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額や保険金等支払金の増加により、減少。

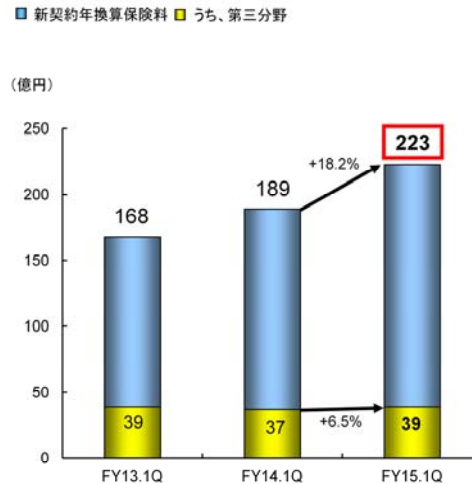
	15.3末	15.6末	前年度末比
単体 ソルベンシー・マージン比率	2,555.0%	2,579.9%	+24.9pt

ソニー生命の業績(単体)①

新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)



新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)



(左側のグラフ)

棒グラフで示しております新契約高は、前年同期比16.6%増の1兆3,242億円となり、第1四半期としては過去最高の新契約高を更新しました。

これは、死亡保障強化の取組みと好調な市況を受けて、変額保険や家族収入保険の販売が大幅に増加したことによるものです。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期比14.2%増の17万6千件となりました。

(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、変額保険の販売好調により、前年同期比18.2%増の223億円となりました。

このうち第三分野は、前年同期比6.5%増の39億円となりました。

スライド9をご覧ください。

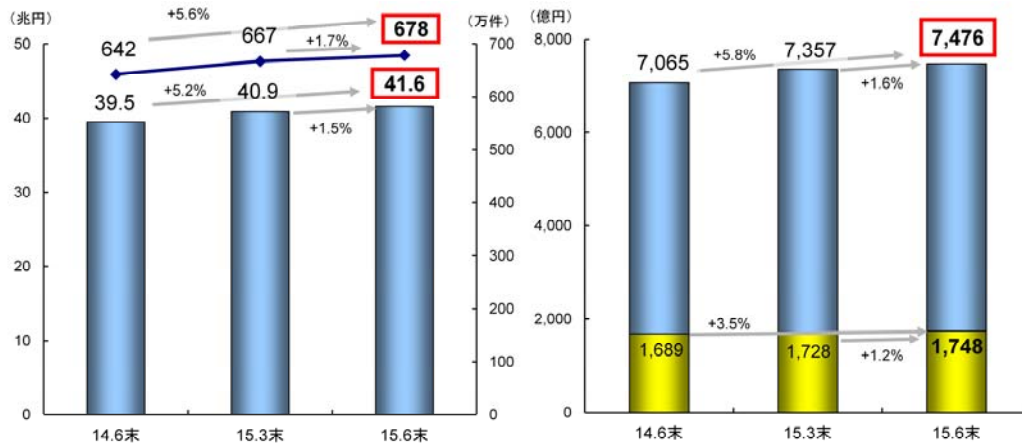
ソニー生命の業績(単体) ②

保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■ 保有契約高 — 保有契約件数

■ 保有契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



新契約および解約・失効等を織り込んだ保有契約の状況についてご説明いたします。

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております保有契約高は、好調な新契約獲得により、前年同期末に比べ5.2%増加の41兆6千億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年同期末に比べ5.6%増加の678万件となりました。

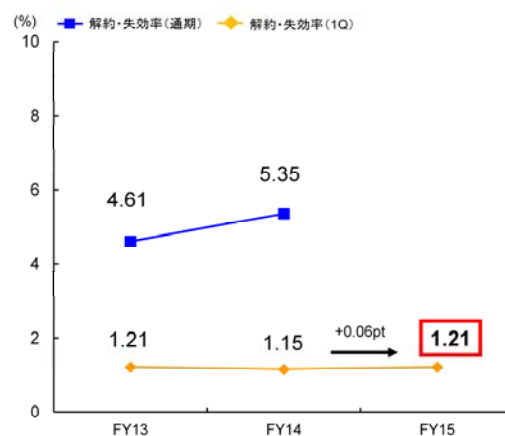
(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は前年同期末に比べ5.8%増加の7,476億円となりました。このうち第三分野は、前年同期末に比べ3.5%増加の1,748億円となりました。

スライド10をご覧ください。

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険)

* 解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない
解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率

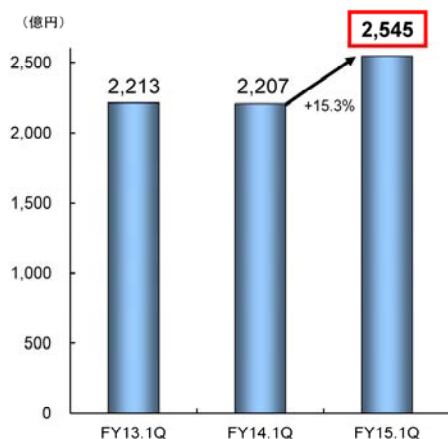


解約・失効率は、前年度に比べて0.06ポイント上昇の1.21%となりました。

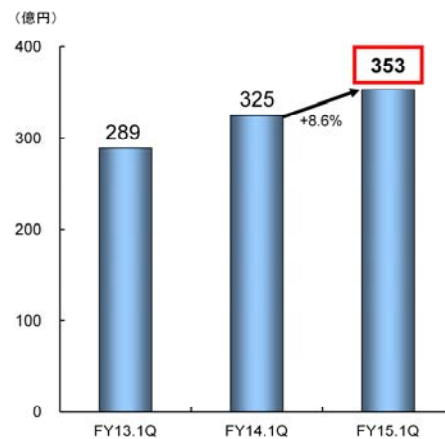
続きまして、スライド11をご覧ください。

ソニー生命の業績(単体) ④

保険料等収入



利息及び配当金等収入



(左側のグラフ)

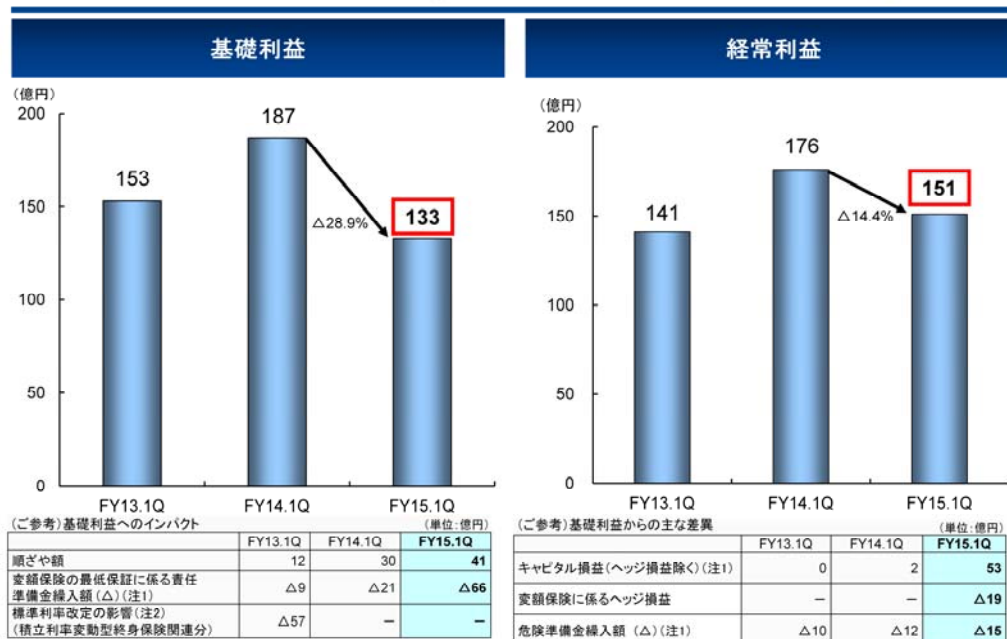
保険料等収入は、保有契約高が堅調に推移したことに加え、今年5月発売の新商品「一時払終身保険(無告知型)」や変額保険の販売好調により、前年同期に比べ15.3%増加の2,545億円となりました。

(右側のグラフ)

利息及び配当金等収入は、好調な市況と業容拡大による運用資産の拡大にともない、前年同期に比べ8.6%増加の353億円となりました。

次のスライド12をご覧ください。

ソニー生命の業績(単体) ⑤



(注1) 変額保険の最低保証に係る責任準備金、危険準備金のマイナスは繰入額を表します。キャピタル損益は、変額保険に係るヘッジ損益を除きます。
(注2) 2013年5月に保険料率改定を行った積立利率変動型終身保険における、料率改定前の販売増加による影響額を表します。

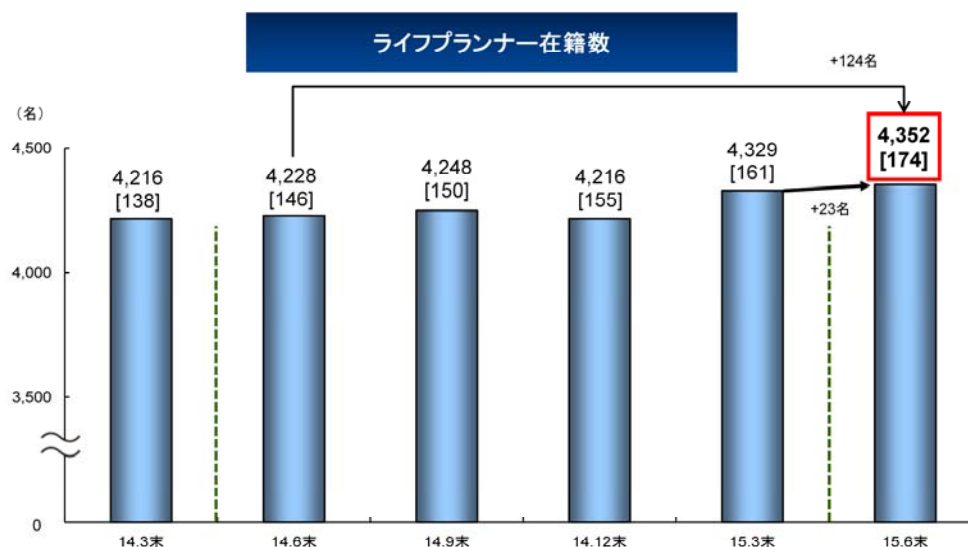
(左側のグラフ)

基礎利益は、順ざや額は増加したものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が、同保険の大幅な販売増加により増加したことや、保険金等支払金が増加したことにより、前年同期に比べ、28.9%減少の133億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益につきましては、一般勘定における有価証券売却益などが増加したものの、基礎利益の減少により、前年同期に比べ、14.4%減少の151億円となりました。

次のスライド13をご覧ください。



(注) []は、嘱託ライフプランナー数と契約ライフプランナー数の合計で、内数です。
嘱託ライフプランナーおよび契約ライフプランナーとは、定年退職を迎えた後も、販売状況などの一定の要件を満たすことで、ライフプランナーとしての活動を続けている営業社員です。

ライフプランナー在籍数は、前年度末から23名、前年同期末から124名増加し、4,352名となりました。

ライフプランナーの採用を担う営業所長登用の積極化など、これまでの採用強化策が奏功し、陣容は着実に増加しています。

スライド14をご覧ください。

一般勘定資産の内訳

(億円)	15.3末		15.6末	
	金額	割合	金額	割合
公社債	56,068	86.2%	57,560	86.4%
株式	424	0.7%	438	0.7%
外国公社債	1,055	1.6%	1,003	1.5%
外国株式等	260	0.4%	262	0.4%
金銭の信託	3,132	4.8%	2,965	4.4%
約款貸付	1,623	2.5%	1,635	2.5%
不動産 ^(注)	1,177	1.8%	1,172	1.8%
現預金・コールローン	568	0.9%	589	0.9%
その他	767	1.2%	1,018	1.5%
合計	65,080	100.0%	66,646	100.0%

(注)「不動産」については、土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

<資産運用状況>

金利リスクの低減を目的として、保険契約の持つ長期の負債特性に合わせて超長期債の購入を継続

〔債券のDuration〕

2014. 3末 19.7 年

2015. 3末 20.3 年

2015. 6末 20.1 年

■「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用。

■一般勘定資産における公社債(金銭の信託で運用されているものを含む)の実質的な構成比

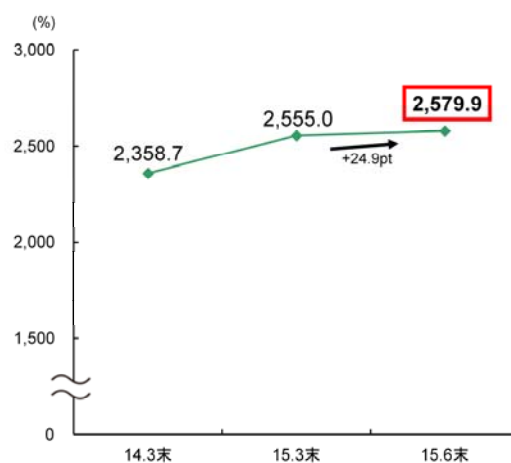
2015.6末・・・90.9% (2015.3末・・・91.0%)

前年度末と比較した、2015年6月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

引き続き、超長期債への投資を推進しました。

次のスライド15をご覧ください。

単体ソルベンシー・マージン比率



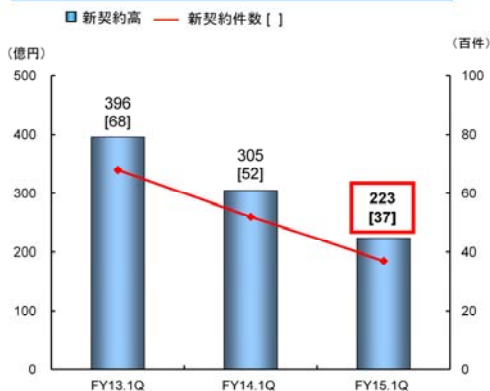
ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から24.9ポイント増加の2,579.9%となり、引き続き高い水準を維持しております。

続きまして、スライド16をご覧ください。

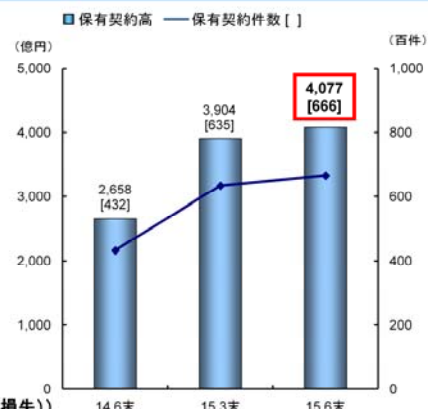
年金事業の業績

(ソニーライフ・エイゴン生命の新契約高及び保有契約高)

新契約高・件数



保有契約高・件数



(ソニーライフ・エイゴン生命およびSA Reinsuranceの四半期純利益(△損失))

(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期差
ソニーライフ・エイゴン生命	△ 12	△ 2	+9
SA Reinsurance	7	△ 2	△ 9

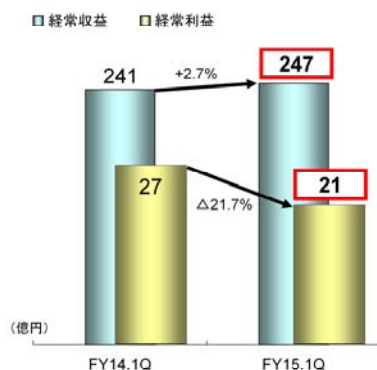
注) ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、SFHの持分法適用関連会社です。
SA Reinsuranceの業績数値は、米国会計原則に準拠しています。SFHの親会社株主に帰属する四半期純利益には上記の金額に対する持分相当(50%)が反映されています。

変額年金保険を販売しております、ソニーライフ・エイゴン生命の業績についてご説明します。

新契約高は前年同期に比べ減少しましたが、保有契約高は堅調に推移しており、業容は着実に拡大しております。

次のスライド17からソニー損保の業績についてご説明いたします。

ソニー損保 業績ハイライト



- ◆ 前年同期比 経常収益は増収、経常利益は減益。
- ◆ 経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、増加。
- ◆ 経常利益は、経常収益が増加したものの、事業費の増加などにより、減益。

	(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比	
経常収益		241	247	+6	+2.7%
保険引受収益		238	244	+6	+2.6%
資産運用収益		3	3	+0	+4.1%
経常費用		214	226	+12	+5.8%
保険引受費用		160	165	+5	+3.4%
資産運用費用		0	0	+0	—
営業費及び一般管理費		53	60	+6	+12.8%
経常利益		27	21	△5	△21.7%
四半期純利益		18	14	△3	△19.9%

	(億円)	15.3末	15.6末	前年度末比	
責任準備金残高		865	897	+32	+3.7%
純資産額		247	263	+16	+6.5%
総資産額		1,579	1,599	+20	+1.3%

ソニー損保の経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、前年同期比2.7%増加の247億円となりました。

経常利益は、経常収益が増加したものの、事業費の増加などにより、前年同期比21.7%減少の21億円となりました。

四半期純利益は、前年同期比19.9%減少の14億円となりました。

スライド18、19では、ソニー損保の主要業績指標、種目別保険引受の状況を記載しております。後ほどご覧ください。

続きまして、スライド20 から、ソニー損保の業績の詳細をご説明いたします。

ソニー損保 主要業績指標



(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比
元受正味保険料	231	240	+4.2%
正味収入保険料	234	243	+4.0%
正味支払保険金	111	112	+0.9%
保険引受利益	24	18	△24.8%
正味損害率	54.7%	53.4%	△1.3pt
正味事業費率	24.4%	26.3%	+1.9pt
コンバインド・レシオ	79.1%	79.6%	+0.5pt

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

<主な増減要因>

◆ 主力の自動車保険を中心に増加。

◆ 正味事業費率は、主に広告宣伝費の増加により、上昇。

	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比
E.I 損害率	58.0%	58.4%	+0.4pt
E.I 損害率+正味事業費率	82.4%	84.7%	+2.3pt

(注) E.I 損害率 = (正味支払保険金 + 支払備金繰入額 + 損害調査費) ÷ 既経過保険料
 [除く地震保険、自賠責保険]

◆ E.I 損害率は、自動車保険の事故率が低位安定しているものの、支払備金戻入額の減少により、上昇。

	15.3末	15.6末	前年度末比
保有契約件数	170万件	172万件	+2万件 +1.6%
単体 ソルベンシー・マージン比率	629.6%	655.1%	+25.5pt

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

(百万円)	FY14.1Q	FY15.1Q	増減率
火 災	62	89	+42.4%
海 上	—	—	—
傷 害	2,134	2,156	+1.0%
自 動 車	20,920	21,840	+4.4%
自 賠 責	—	—	—
合 計	23,117	24,086	+4.2%

正味収入保険料

(百万円)	FY14.1Q	FY15.1Q	増減率
火 災	8	13	+51.3%
海 上	50	11	△78.0%
傷 害	2,218	2,245	+1.2%
自 動 車	20,868	21,793	+4.4%
自 賠 責	289	311	+7.6%
合 計	23,434	24,375	+4.0%

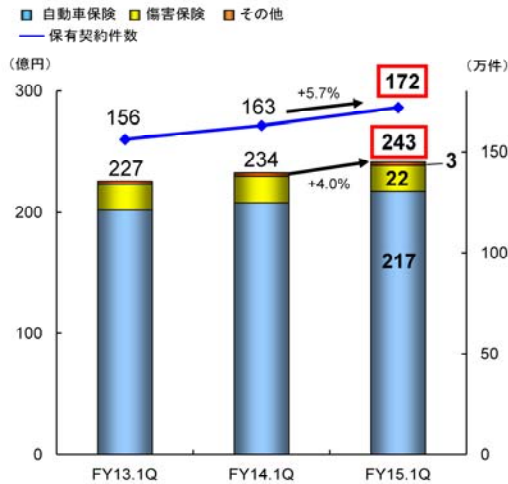
正味支払保険金

(百万円)	FY14.1Q	FY15.1Q	増減率
火 災	1	0	△92.7%
海 上	47	12	△74.6%
傷 害	541	593	+9.7%
自 動 車	10,288	10,359	+0.7%
自 賠 責	291	303	+4.0%
合 計	11,170	11,268	+0.9%

(注)「傷害」にはガン重点医療保険が含まれる。

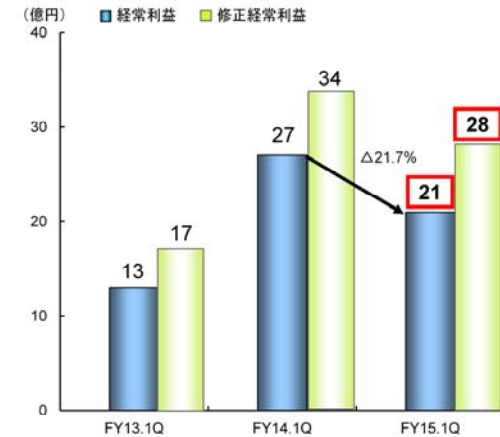
ソニー損保の業績①

正味収入保険料と保有契約件数



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。
両方で正味収入保険料の99%を占める。
傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

経常利益と修正経常利益



※修正経常利益＝経常利益＋異常危険準備金繰入額

(ご参考) 異常危険準備金繰入状況 (単位: 億円)			
	FY13.1Q	FY14.1Q	FY15.1Q
異常危険準備金繰入額	+4	+7	+7

(注) 異常危険準備金繰入額のプラスは繰入額を表します。

(左側のグラフ)

保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期末比で5.7%増加の172万件となりました。

正味収入保険料は、自動車保険の販売が堅調だったことから、前年同期に比べ4.0%増加し、243億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益は、先のご説明のとおりです。

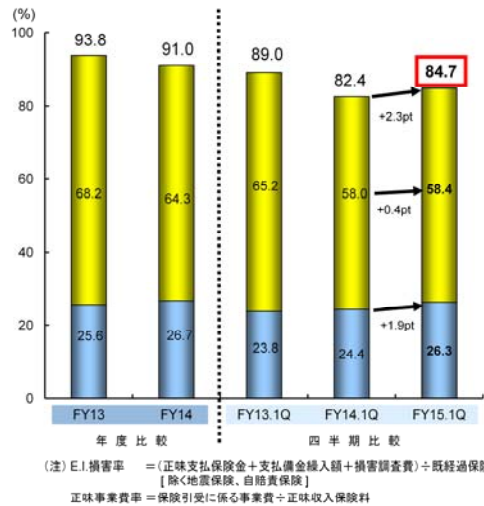
なお、修正経常利益は、経常利益から異常危険準備金繰入・戻入の影響を除いたもので、損益の実態を表すものとして社内で使用している管理指標です。修正経常利益は、28億円となりました。

スライド21をご覧ください。

ソニー損保の業績②

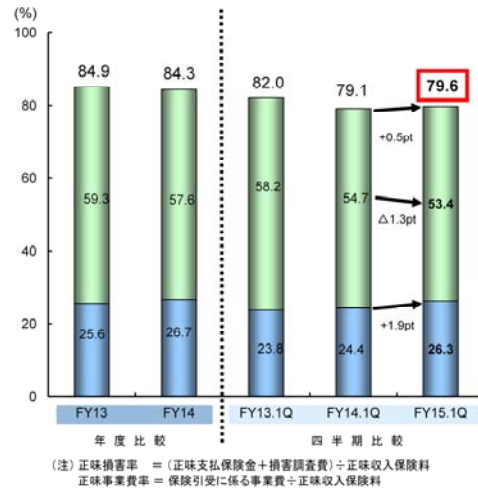
E.I.損害率 + 正味事業費率

■ E.I.損害率 ■ 正味事業費率



<参考> コンバインド・レシオ (正味損害率 + 正味事業費率)

■ 正味損害率 ■ 正味事業費率



(左側のグラフ)

E.I.損害率は、主に自動車保険の事故率が低位安定しているものの、支払備金戻入額の減少により、前年同期に比べ0.4ポイント上昇し、58.4%となりました。

正味事業費率は、主に広告宣伝費の増加により、前年同期に比べ1.9ポイント増加し、26.3%となりました。

この結果、E.I.損害率と正味事業費率を合わせた合算率は、前年同期に比べ2.3ポイント上昇し、84.7%となりました。

(右側のグラフ)

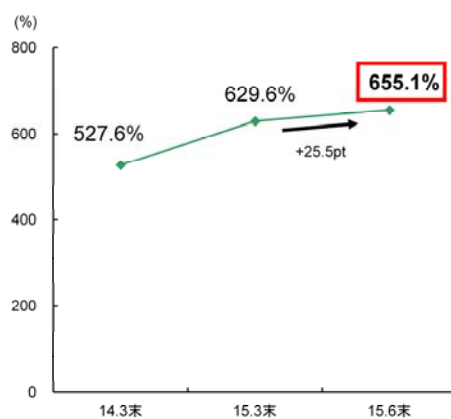
正味損害率は、前年同期に比べ1.3ポイント低下し53.4%となりました。

正味損害率は、支払備金繰入額を反映していないなどの点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

正味損害率と正味事業費率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ0.5ポイント上昇し、79.6%となりました。

スライド22をご覧ください。

単体ソルベンシー・マージン比率



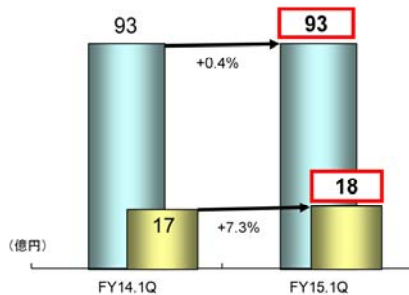
単体ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ25.5ポイント上昇し、655.1%となりました。

次のスライド23から、ソニー銀行の業績についてご説明いたします。

ソニー銀行 業績ハイライト(連結・単体)



□ 連結経常収益 □ 連結経常利益



<連結>

◆ 外貨関連取引および住宅ローンに係る収益が増加したことにより、経常収益、経常利益ともに増加。

<銀行単体>

◆ 業務粗利益・業務純益ともに増加。
 ・ 資金運用収支は減少。有価証券利息配当金が減少。
 ・ 役務取引等収支は増加。住宅ローンにかかる手数料収入が増加。
 ・ その他業務収支は増加。前年同期に債券売却益を計上した反動はあったものの、顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加。

<連結>

(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比	
連結経常収益	93	93	+0	+0.4%
連結経常利益	17	18	+1	+7.3%
親会社株主に帰属する連結四半期純利益	11	12	+1	+12.6%

<銀行単体>

(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比	
経常収益	86	86	+0	+0.0%
業務粗利益	52	53	+0	+1.6%
資金運用収支	41	39	△1	△3.8%
役務取引等収支	△2	0	+2	—
その他業務収支	13	13	+0	+0.9%
営業経費	37	35	△1	△4.6%
業務純益	15	18	+2	+16.1%
経常利益	17	18	+1	+8.9%
四半期純利益	11	12	+1	+13.4%

(億円)	15.3末	15.6末	前年度末比	
純資産額	770	778	+7	+1.0%
その他有価証券評価差額金	66	59	△6	△9.7%
総資産額	20,625	20,556	△68	△0.3%

ソニー銀行の連結経常収益は前年同期比0.4%増加の93億円、連結経常利益は前年同期比7.3%増加の18億円となりました。

これは、外貨関連取引および住宅ローンにかかる収益が増加したことによるものです。

ソニー銀行単体も、連結同様の要因により増収増益となりました。

業務粗利益は、住宅ローンにかかる手数料収入の増加により役務取引等収支が改善し、前年同期比1.6%増加の53億円となりました。業務純益は、前年同期に比べ16.1%増加し、18億円となりました。

スライド24では、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。
 スライド25をご覧ください。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①

(億円)	14.6末	15.3末	15.6末	前年度末比	
預かり資産残高	19,500	20,079	20,011	△67	△0.3%
預金	18,297	18,782	18,722	△60	△0.3%
円預金	14,628	15,510	15,589	+78	+0.5%
外貨預金	3,669	3,272	3,133	△139	△4.3%
投資信託	1,202	1,296	1,289	△7	△0.6%
貸出金残高	10,716	11,871	12,260	+388	+3.3%
住宅ローン	9,627	10,743	11,112	+368	+3.4%
その他	1,089	1,128	1,147 ^{*1}	+19	+1.8%
自己資本比率 ^{*2} (国内基準)	11.68%	10.66%	10.56%	△0.10pt	

<主な増減要因>

◆ 円預金残高は、外貨預金からの振替えがあったものの、金利競争の高まりもあり、横ばい。

◆ 外貨預金は、為替相場の円安進行に伴う円預金への振替えが進み、残高は減少。

◆ 貸出金は、住宅ローンの伸びにより、残高増加。

*1 うち1,097億円は法人向け

*2 27ページの自己資本比率(国内基準)の推移ご参照

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②

<参考> 社内管理ベース

(億円)	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比	
業務粗利益	52	53	+0	+1.6%
資金収支 ^{*1} ①	44	45	+0	+1.0%
手数料等収支 ^{*2} ②	△0	2	+3	—
その他収支 ^{*3}	8	5	△3	△37.0%
コアベース業務粗利益 (A) =①+②	44	48	+4	+9.2%
営業経費等 ③	36	35	△0	△1.5%
コアベース業務純益 = (A) - ③	7	12	+4	+57.6%

■ 社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

*1 資金収支 …… 資金運用収支+その他業務収支に計上されている
実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

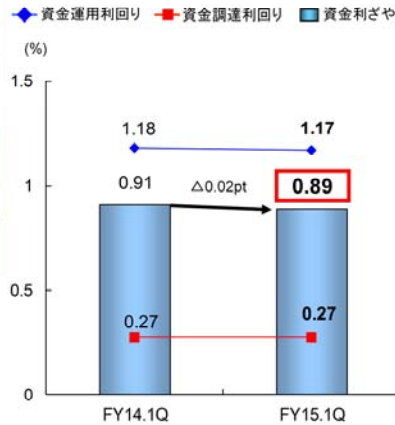
*2 手数料等収支 …… 役務取引等収支+その他業務収支に計上されている
お客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支 …… その他業務収支から *1 と *2 の調整分を控除したもの
(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)

■ コアベース

社内管理ベースの その他収支 (主な内容は債券関係損益およびデリバティブ
関連損益) を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な利益を表すもの

<参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移



(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り

このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくために、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

(左側のテーブル)

資金収支は、住宅ローンを好調に積み上げたことなどにより、前年同期比1.0%増加の45億円となりました。手数料等収支は、住宅ローンおよび顧客の活発な外貨預金取引に伴う手数料収入の増加により、3億円増加の2億円となりました。

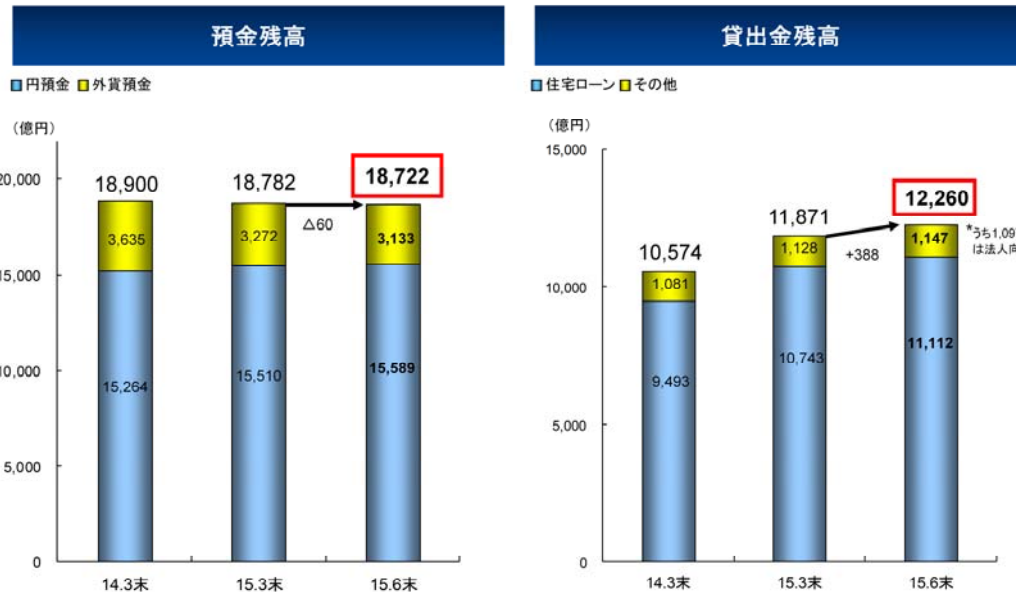
その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ4億円増加の48億円、コアベース業務純益も4億円増加の12億円となりました。

(右側のグラフ)

青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、1.17%となりました。赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは、0.27%となりました。その結果、棒グラフで示しております資金利ざやは、0.89%となりました。

スライド26をご覧ください。

ソニー銀行の業績(単体)①



業容の推移について、前年度末からの増減をご説明いたします。

(左側のグラフ)

預金残高は前年度末に比べ60億円減少し、1兆8,722億円となりました。

うち、円預金の残高は、外貨預金からの振替えがあったものの、金利競争の高まりもあり、前年度末比横ばいの1兆5,589億円となりました。また、外貨預金の残高は、為替相場の円安進行に伴う円預金への振替えが進み、前年度末比139億円減少の3,133億円となりました。

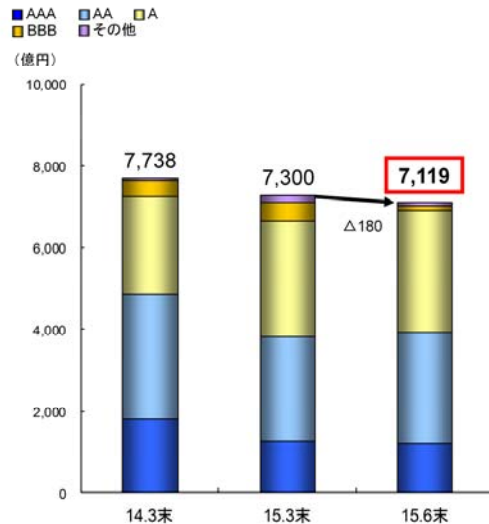
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローンが好調に増加し、前年度末に比べ388億円増加の1兆2,260億円となりました。

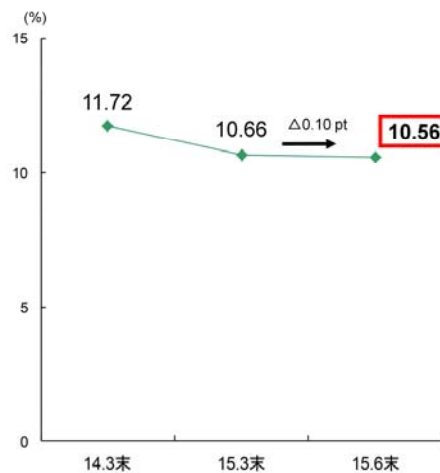
スライド27をご覧ください。

ソニー銀行の業績(単体)②

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率(国内基準)の推移



(注)平成18年(2006年)金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。なお、2014年3月末よりバーゼル基準へ移行。

(左側のグラフ)

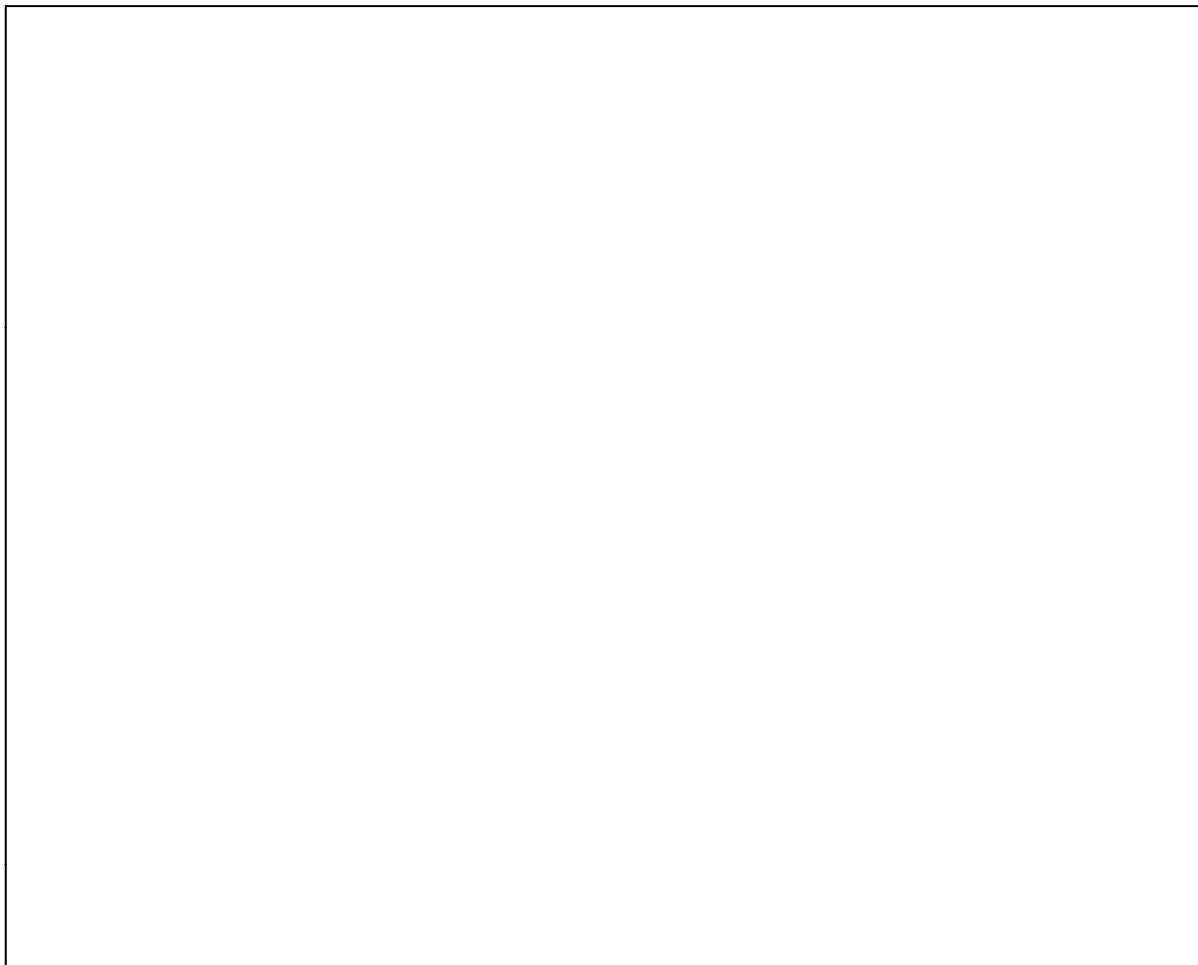
有価証券残高は、前年度末に比べ180億円減少し、7,119億円となりました。
引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、10.56%となりました。
前年度末比0.10ポイントの低下ですが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。
続きましてスライド29をご覧ください。

2015年度 連結業績予想



2015年度連結業績予想



連結業績予想については2015年4月30日に公表した数値から変更なし

(億円)	FY2014 (通期実績)	FY2015 (通期予想)	前年度比	FY15.1Q (3M実績)	進捗率
連結経常収益	13,523	13,000	△3.9%	3,573	27.5%
うち生命保険事業	12,239	11,680	△4.6%	3,239	27.7%
うち損害保険事業	930	971	+4.4%	247	25.5%
うち銀行事業	384	368	△4.2%	93	25.4%
連結経常利益	900	850	△5.6%	189	22.3%
うち生命保険事業	783	741	△5.4%	149	20.1%
うち損害保険事業	42	44	+4.5%	21	48.2%
うち銀行事業	73	64	△12.7%	18	29.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	544	570	+4.7%	128	22.5%

<各事業の経常収益・経常利益>

■生命保険事業

FY15.1Qの経常収益は、保険料等収入や特別勘定における資産運用収益の増加により期初の想定を上回りましたが、経常利益は、主として変額保険に係る責任準備金繰入額の増加により、期初の想定を下回りました。通期見通しについては、FY15.2Q以降の変額保険の販売動向や市況変動による利益への増減インパクトを勘案し、据え置きます。

■損害保険事業

FY15.1Qは、損害率が期初の想定以上に改善したものの、FY15.2Q以降、事業費の増加や自然災害などによる損害率の上昇が見込まれることから、通期見通しについては、据え置きます。

■銀行事業

FY15.1Qは、外貨関連取引および住宅ローンにかかる収益が増加したことにより、経常収益、経常利益ともに、期初の想定を上回りました。通期見通しについては、FY15.2Q以降のビジネスの動向や市場環境を見極めるため、据え置きます。

2015年度 連結業績予想は2015年4月30日に公表した数値から変更しておりません。

第1四半期の連結経常利益は、生命保険事業の変額保険の販売増加により、期初の想定を下回りました。しかしながら、通期見通しについては、第2四半期以降の変額保険の販売動向や市況変動による増減インパクトを勘案し、据え置きます。

スライド31をご覧ください。

ソニー生命の2015年6月末MCEV および経済価値ベースのリスク量

2015年6月末のMCEVの計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。
また、2015年6月末については、一部簡易な計算を実施しております。

ソニー生命の2015年6月末MCEV



(億円)	15.3末	15.6末	増減
MCEV	13,229	13,888	+660
修正純資産	11,192	10,171	△1,021
保有契約価値	2,037	3,718	+1,681

(億円)	15.3末	15.6末
新契約価値	486 (12カ月)	125 (3カ月)
新契約マージン	3.8%	3.2%

(注) 新契約マージンは「新契約価値 / 収入保険料現価」です。

(注) 2015年6月末の計算は、2015年3月末の前提条件から経済前提と解約・失効率をアップデート。

◆ MCEV増減要因

- ・2015年3月末に比べ、金利の上昇や新契約の獲得などにより、660億円増加。

◆ 新契約価値・新契約マージン

- ・2015年6月末の新契約価値は、3カ月で125億円(年換算500億円)。
- ・新契約マージンは、2015年3月末に比べ、金利は上昇しているものの、商品構成の変化の影響などにより、0.6ポイント低下。

*日本国債利回りの推移については、参考情報P.42をご覧ください。

ソニー生命の2015年6月末のMCEVは、1兆3,888億円となりました。

2015年3月末に比べ、金利の上昇や新契約の獲得などにより660億円増加しました。

2015年6月末の新契約価値は、3カ月間で125億円(年換算500億円)、新契約マージンは、3.2%となりました。

新契約マージンは、2015年3月末に比べ、金利は上昇しているものの、商品構成の変化の影響などにより、0.6ポイント低下しました。

次に、経済価値ベースのリスク量について、ご説明いたします。

スライド32をご覧ください。

ソニー生命の2015年6月末経済価値ベースのリスク量



(億円)	15.3末	15.6末
保険リスク	7,242	7,328
市場関連リスク	2,870	3,000
うち金利リスク*	2,185	2,277
オペレーショナルリスク	259	263
カウンターパーティリスク	18	21
分散効果	△2,934	△2,999
経済価値ベースのリスク量	7,455	7,612

*ただし、市場関連リスク内での分散効果考慮前

(億円)	15.3末	15.6末
MCEV	13,229	13,888
ESR	177%	182%

(注) 経済価値ベースのリスク量とは、ソニー生命が保有する各種リスク(保険リスク、市場関連リスク等)を、市場整合的な方法で総合的に評価したリスク総量です。

(注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99.5%水準とし、EUソルベンシー II (QIS5)の標準モデルを参考にした内部モデルを採用しています。

(注) ESRは「MCEV / 経済価値ベースのリスク量」です。

◆ 市場関連リスクを抑制することで、健全な水準を維持。

2015年6月末の経済価値ベースのリスク量は、7,612億円となり、うち保険リスクは7,328億円、市場関連リスクは3,000億円となりました。

経済価値ベースのリスク量は、保有契約の増加などにより2015年3月末に比べ、増加しましたが、経済価値ベースのリスク量に対するMCEVの比率であるESRは182%となり、引き続き健全な水準を維持しております。

以上で説明を終了いたします。

ありがとうございました。

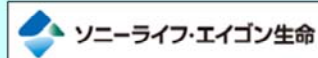
参考情報



その他トピックス①

ソニーライフ・エイゴン生命の概要

営業開始: 2009年12月1日
 資本金: 260億円(資本準備金130億円を含む)
 株主: ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
 取扱商品: 変額個人年金保険
 販売チャネル: ライフプランナー、および銀行等(計22社) * 2015年8月7日現在



SA Reinsurance の概要

設立日: 2009年10月29日
 資本金: 110億円
 株主: ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
 事業内容: 再保険業

注) ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、持分法適用関連会社です。

ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

- 2015年6月末の住宅ローン残高の**22%**
 2015年度第1四半期の住宅ローン新規融資実行金額の**16%**
 ※銀行代理業務取扱い開始: 2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

- 2015年度第1四半期の新規自動車保険契約件数の**約4%**
 ※自動車保険取扱い開始: 2001年5月



その他トピックス②

<2015年度第1四半期以降の主な取組み>

2015年 4月 1日	生保	代表取締役社長の交代
2015年 4月 1日	生保	福井県に営業拠点(福井支社)を新設
2015年 4月 1日	銀行	ソニー銀行子会社のスマートリンクネットワーク、社名を「ソニーペイメントサービス株式会社」へ変更
2015年4月30日	介護	ゆうあいホールディングスへの資本参加等に関する契約締結
2015年5月 2日	生保	【新商品】「一時払終身保険(無告知型)」の発売
2015年6月 1日	銀行	「円定期 plus+」取り扱い開始
2015年6月 24日	銀行	代表取締役社長の交代
2015年7月 1日	損保	「熊本コンタクトセンター」業務開始
2015年7月 13日	銀行	新カードローン取り扱い開始

ソニー生命の保有する有価証券(一般勘定)



有価証券の時価情報

売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの

(億円)

区 分	14.3末			15.3末			15.6末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
満期保有目的の債券	44,096	48,399	4,303	48,787	57,182	8,394	49,700	56,790	7,089
責任準備金対応債券	—	—	—	—	—	—	919	919	0
其他有価証券	10,655	11,898	1,243	10,078	11,766	1,688	9,670	11,226	1,555
公社債	10,359	11,467	1,108	9,746	11,201	1,455	9,360	10,682	1,322
株式	122	212	89	134	294	160	132	298	165
外国証券	158	194	35	194	264	69	176	242	66
その他の証券	14	25	10	3	6	3	1	3	1
合 計	54,751	60,298	5,547	58,866	68,949	10,083	60,290	68,936	8,646

(注1) 本表には、金銭の信託のうち売買目的有価証券以外のものを含んでいます。

(注2) 上表の満期保有目的の債券には、デリバティブを組み込んだ金融商品(元本確保型クーポン日経平均連動30年債)が含まれております。各期における金額は以下の通りです。

2014年3月末時点 帳簿価格438億円 時価560億円 差益122億円
 2015年3月末時点 帳簿価格442億円 時価575億円 差益132億円
 2015年6月末時点 帳簿価格364億円 時価455億円 差益91億円

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

14.3末		15.3末		15.6末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
—	—	10	0	29	△0

(注) 本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

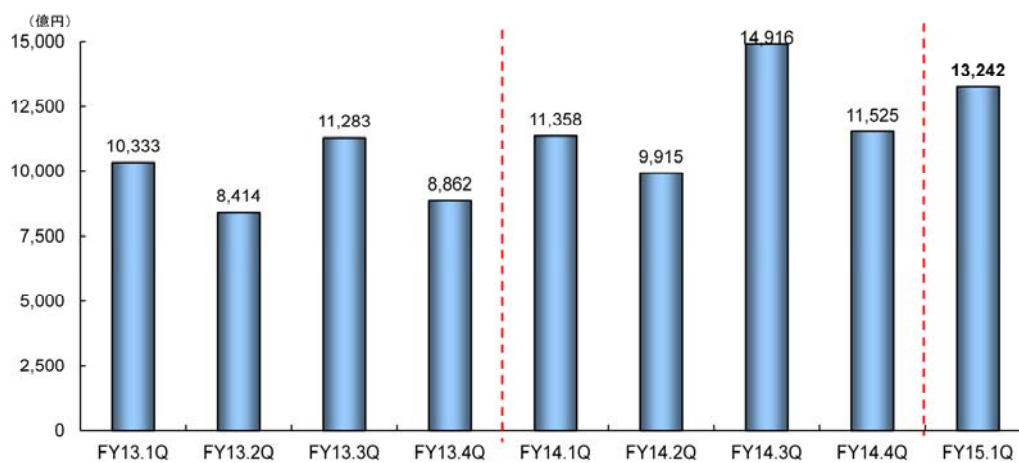
ソニー生命の利配収入内訳

(百万円)

	FY14.1Q	FY15.1Q	前年同期比
現預金	0	0	+212.6%
公社債	26,173	27,811	+6.3%
株式	63	79	+24.2%
外国証券	2,230	2,334	+4.7%
その他の証券	56	1,036	—
貸付	1,457	1,512	+3.8%
不動産	2,570	2,570	+0.0%
その他	5	18	+215.3%
合計	32,557	35,363	+8.6%

ソニー生命の新契約高の四半期推移

新契約高の四半期(3ヶ月)ごとの推移

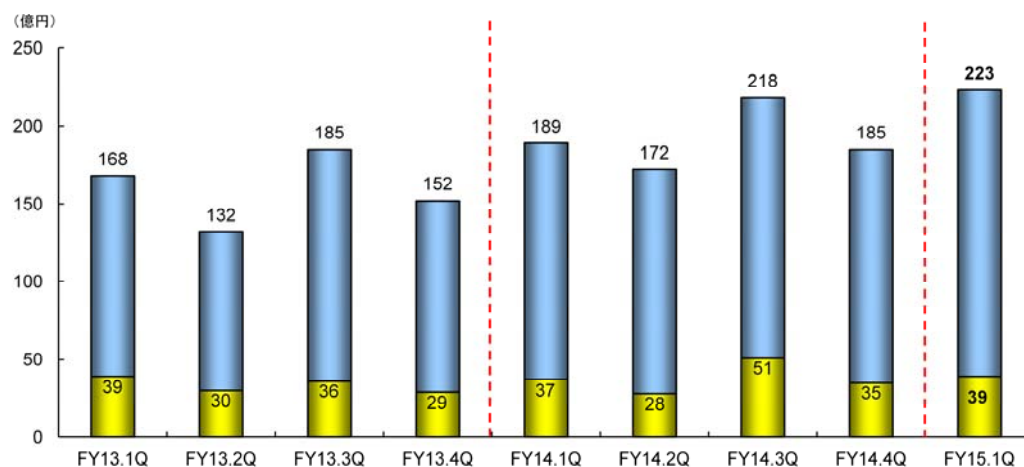


ソニー生命の新契約年換算保険料の四半期推移



新契約年換算保険料の四半期(3ヶ月)ごとの推移

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



経済価値ベースのリスクの測定方法①

■ 市場関連リスク 注1

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QISS)
金利リスク 右のShockを与えた時の、 経済価値純資産の変動 以下同じ。	年限と通貨ごとに異なる金利の変化率を設定。 但し、円金利は主成分分析を用いて、3つの変動要因。 (パラレルシフト、カーブのフラット化、曲がり)に分解して計測。 (例) 円30年における、それぞれの変化率は、△33%、△28%、△8%。	年限ごとに異なる金利の変化率を設定。 但し、最低下落幅は1% (例) 円30年における、変化率は△30%。
株式リスク	上場株式 45% その他証券 70%	Global 30% Others 40% 注2
不動産投資リスク	不動産 25%	不動産 25%
信用リスク	信用リスク=(時価)×(格付毎のリスク係数)×デレレーション 尚、デレレーションには格付けにより、キャップとフロアーがある。 (例) A格:リスク係数(1.4%)、キャップ(23)、フロアー(1)	同左
為替リスク	不利な方向へ30%変化。	不利な方向へ25%変化。

注1 2015年6月末現在、主要な項目。

注2 標準リスク係数はGlobal: 39%/Other: 49%。symmetric adjustment(過去一定期間の株価インデックスの平均値を基準として±10%以内で加える調整)が適用され、QISS試行時点(2009年12月末)は30%/40%。

経済価値ベースのリスクの測定方法②

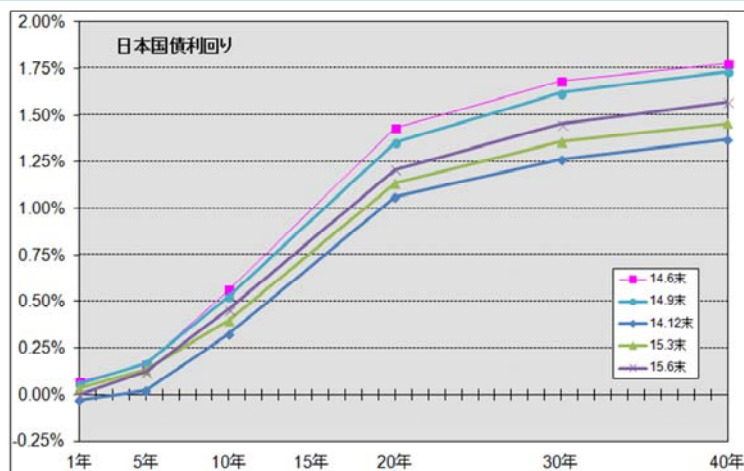
■ 保険リスク 注1

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QIS5)
死亡リスク	各経過年の死亡率が15%増加。	同左
生存リスク	各経過年の死亡率が20%減少。	同左
解約リスク	- 各経過年の解約率が50%増加。 - 各経過年の解約率が50%減少。 - 解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%が、直ちに解約。 これらの最大値 注2 。	- Life区分50%増加、Health区分20%増加 - Life区分50%減少、Health区分20%減少 - 解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30% (団体年金等は70%) が、直ちに解約。 これらの最大値。
事業費リスク	各経過年の事業費が10%増加。 インフレ率が1%上昇。	同左
疾病リスク	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。 回復率が20%減少。

注1 2015年6月末現在、主要な項目。

注2 ソニー生命は個別契約毎の大小比較を実施。

日本国債利回りの推移



日本国債 利回り	14.6末	14.9末	14.12末	15.3末	15.6末	15.3末 →15.6末
1年	0.07%	0.06%	-0.03%	0.03%	0.00%	-0.03%
5年	0.16%	0.17%	0.02%	0.13%	0.12%	-0.01%
10年	0.56%	0.52%	0.32%	0.40%	0.46%	0.06%
20年	1.43%	1.35%	1.06%	1.14%	1.21%	0.07%
30年	1.68%	1.62%	1.27%	1.36%	1.45%	0.09%
40年	1.78%	1.73%	1.37%	1.46%	1.57%	0.12%



お問い合わせ先:
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
広報・IR部
TEL:03-5785-1074